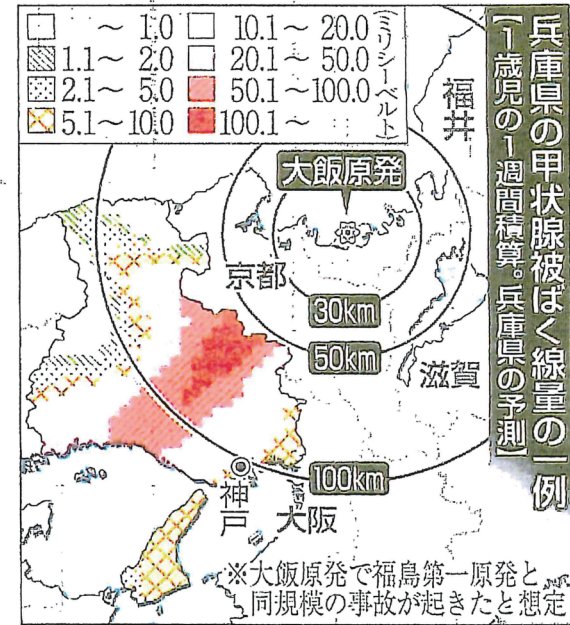


<配布資料1>

原発事故時拡散予測 兵庫県全市町の 75%が50ミリシーベルト超



兵庫県は二十四日、福井県にある原子力発電所で東京電力福島第一原発と同規模の事故が起きた場合の放射線物質の拡散予測を公表し、兵庫県内全四十一市町のうち75%に当たる三十一市町の役場付近で、甲状腺の被ばく線量が一週間の積算で五〇ミリシーベルトを超えると予測した。五〇ミリシーベルトは国際原子力機関（IAEA）が安定ヨウ素剤を予防服用する際の基準にしており、県西部の姫路市も該当した。

最も線量が高かったのは、関西電力の高浜原発で事故が起こった際の三田市役所付近で、約一三九ミリシーベルト。神戸市は百二キロ離れた関電大飯原発では約七五ミリシーベルト、九十五キロ離れた高浜原発では約六〇ミリシーベルトだった。全身の被ばくを示す「実効線量」はIAEAの基準を超える市町はなかった。兵庫県は原発から約二十キロ圏内の「緊急防護措置区域（UPZ）」の範囲外。県の担当者は地域防災計画の見直しを念頭に、「UPZ外の対応指針を早急に示してほしい」と国に注文を付けた。昨年四月にも県東部の四市の拡散予測を公表していたが、他の市町からの要請があり、地域を広げ再分析した。

2014年4月25日 東京新聞朝刊